

東西落語の楽しみ

落語には大きく分けて、東京を起点とする「江戸落語」と大阪を起点とする「上方落語」があります。言葉も《江戸弁》と《大阪弁》に分かれ、それぞれがその発祥から生まれたと思われる特徴を持っています。

江戸落語の発祥は、お座敷芸でした。お座敷芸で武士や、商人が舞いや音楽を楽しむように「落とし噺」を楽しんだのが始まりであったと伝えられています。お座敷芸として洗練されていった江戸落語は粋を重んじ、軽妙洒落な語り口で観客を飽きさせないのが身上。登場人物にも江戸っ子の粋や男気を思わせるところが多く見られます。

それに比べ、上方落語の発祥は大道芸であったと言われています。縁日などで、屋外で人を集めて語り聞かせながら物売る商人たちと同じく、道を通る人々の注意を引かなければなりません。当然の事ながら上方落語は派手で陽気になっていきます。そのなごりが現在も「見台」（小机）と「小拍子」として残り、話の節目で小拍子を見台に叩きつけて音を出し、注意を引き、話題の転換や場所の移動を表現するのに用いられています。また、動きが派手で着物の裾が乱れるところから「膝隠し」を立てて膝を隠すという習慣も今もなお残っています。

情報や文化の交流とともに、江戸落語も上方落語もお互いに影響を受け、中にはその特徴を失いつつあるものもありますが、その本質は変わってはいません。『百聞は一見に如かず』今回は東西落語対決という形でその違いをお楽しみ下さい。



知ってますか？ ～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

令和2年度

文化芸術による子供育成総合事業

一巡回公演事業一

ちびっ子寄席

みんなで作り参加する みんなの寄席



「文化芸術による子供育成総合事業 一巡回公演事業一」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



文化庁

たのしい寄席鑑賞教室

落語の舞台はとてもシンプルです。座布団の上の70cm四方の空間が世界の全てです。それでも演者の表現力と観客の想像力が重なれば、それは無限の空間へと広がって行くのです。さらに江戸落語と上方落語、同じ笑いでありながら伝承や発展の違いで、異なる面白さへと発展していった二つの笑いを聞き比べてください。笑いの向こうに文化が見えます。観客の空気や雰囲気を読み、その場で創りあげていく一回性の芸術、落語。台本はあっても同じ芸は二度と見ることは出来ません。その日、その時、その場集った、皆さんのためだけにつくられた寄席芸の神髄をお楽しみください。



寄席囃子

江戸時代に上方で発祥したと言われ、寄席で用いられる囃子全般を指します。落語家の登場に鳴らす「出囃子」や、囃子の中の効果音やBGMとして使われる「はめもの」などがあります。主に三味線・笛・太鼓・銅鑼などで構成されています。

色物

寄席において、落語と講談以外の演目を指します。むかし寄席のめぐりで落語・講談の演目を黒文字で、それ以外の演目は朱色などの色文字を使って書かれていたことに由来します。

太神楽(だいかぐら):元は、神仏への奉納として舞われてきた太神楽が大道芸として、より演芸性を高め伝承されてきました。華やかな小道具を使って言祝ぐ、日本古来の伝統芸能です。

かっぽれ

大阪の住吉大社の住吉踊り(重要無形文化財指定)が元になったと言われている踊りです。東京では明治初期に三味線伴奏により「かっぽれ踊り」と称して浅草に常設小屋を設けて興行していました。そこから寄席芸となりました。

出	演	演	目・内	容
江戸落語 橘家蔵之助 他			「落語に触れる子どものために…」 落語のルーツと、成り立ちを解りやすく、笑いを交えながらお話します。	
上方落語・解説 桂阿か枝 他			「寄席囃子の紹介」～落語教室 含む～ 東西の落語の違いと特色を、三味線・太鼓・笛・鉦・銅鑼・拍子木など、エピソードを交え、寄席の順番に従って演奏、解説をいたします。	
かっぽれ 三遊亭金八 他			「上方落語」 派手で陽気な上方落語。上方落語の入門編とも言える落語を、小学生中学生に合わせてお話いたします。	
お囃子 三味線(しゃみせん) はやしや 絹代 他			「なぞかけにチャレンジ!!」(児童・生徒参加コーナー) ワークショップで学び考えた、児童・生徒の発表コーナーです。	
太鼓・銅鑼(たいこ・どら) 桂 小 梅 他			「太神楽」(色物) 太神楽は日本の伝統芸能です。普段あまり目にする事のない華麗な技の数々をご覧ください。	
			「江戸落語」 しっとりと話を聴かせる江戸落語。上方落語とはまた違った言葉遣いなどにも注目してみてください。	
			「みんなでかっぽれ!」(児童・生徒参加コーナー) 最後はかっぽれをみんなで踊りましょう。練習してきた児童・生徒には練習の成果を披露してもらいます。	

